

ユダヤ・イスラエルに思う⑥ アメリカのユダヤ人

長谷川 修

世界のユダヤ人口約1300万人のうち、50%はイスラエルに、40%は米国に住んでいる。ただ両国でユダヤ人の定義は異なる。イスラエルでは「母親がユダヤ人又はユダヤ教に改宗した者」と「イスラエル帰還法」で明文化されているのに対し、米国では非ユダヤ人との混合婚が多く、個人の自己申告制であり、ユダヤ系米国人と呼ぶのが正しいのだろう。

米国ユダヤ人は、17世紀中頃のスペインからの移民を第一波とするが、少数であり後は続かなかった。1830年以降の第二波では、新天地を求めてドイツ語圏からの移民が50年間で30万人程あった。彼らは自営の商店から始まり、百貨店や金融業で成功する者が現れる。1880年からは第三波として、ポグロム（集団襲撃）を逃れた東欧からの移民が40年間で200万人程いた。彼らやその二世は、宝石、被服、新聞、映画、化粧品、不動産、金融等に進出した者が多い。また、独立業として、医師、弁護士、研究職に就く者の比率は高い。

ちなみに、イスラエルユダヤ人の出身国は東欧を主とするが、1948年の建国以降の帰還者には中近東、アフリカ、旧ソ連などが加わり、多彩である。

この他にも、米国とイスラエルの違いは大きい。

米国では、大戦時のホロコーストで600万人のユダヤ人が虐殺されたことの衝撃は大きく、イスラエル建国時の困難に対し多額の義援金を送った。しかし、帰還への呼びかけに応じる人は稀で、米国ユダヤ人の多くはアメリカの自由を選んだ。

米国ユダヤ人の間では、世俗化（非宗教化）の傾向が強い。自らをユダヤ人と認識してもユダヤ教徒としての意識は低く、政教分離についてもリベラルな意見を持つ者が多い。宗教指導者が一定の影響力を持つイスラエルとは大きく異なる。

米国では混合婚と申告制によるユダヤ人滅亡の怖れ、イスラエル国では世俗国家か民族国家かと、それぞれにユダヤアイデンティティの問題を抱えている。国家と民族、宗教の関係は難しい。